慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	19世紀アメリカ東部農民の生産と消費：ニュー・ヨーク州の一農場の場合
Sub Title	Life on a farm in nineteenth-century New York
Author	岡田, 泰男
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1982
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.75, No.3 (1982. 6) ,p.380(152)- 396(168)
JaLC DOI	10.14991/001.19820601-0152
Abstract	
Notes	島崎隆夫教授退任記念特集号
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19820601-0152

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

19世紀アメリカ東部農民の生産と消費

——ニュー・ヨーク州の一農場の場合——

岡　田　泰　男

はしがき

19世紀アメリカ東部の農場は，生産の場であると同時に生活の場でもあった。西部農業の競争や，都市での就業機会の存在を考えると，当時東部の農村に留っていることは，必ずしも得策ではなかったかもしれない。しかし，家族のつながりや住みなれた土地への愛着から，東部農村での生活を捨てなかった者も多かった。本稿では，ニュー・ヨーク州中央部のセネカ郡 (Seneca County) に住んでいた，そのような農民をとり上げ，彼の農場における生産と消費の変化をたどってみたい。よく知られているように，19世紀中葉までは，ニュー・ヨーク州においても小麦生産が盛んであったが，病虫害や西部の競争のおかげで，その後は生産の多角化が進み，畜産や園芸農業，酪農業などが盛んになる。かかる一般的傾向は，センサスなどからも追うことができるが，そうした中で，特定の農場経営が，具体的にはどう変化したかを知りたい，というのが本稿の目的の一つである。さらに，生産面についてはある程度解っているが，消費面に関してはほとんど知られておらず，生活の場としての農場をとらえるため，その両面から考察してみたい，これが第二の目的である。(1)

本稿で利用する史料は，フィリップ・ロット (Philip S. Lott) という農民の勘定帖である。(2) 1830年から1880年代の中葉まで，約半世紀以上にわたって，毎日の取引が記録されている。彼がいかなる人々と取引をしたか，という点については別稿に譲り，ここでは生産と消費にのみ焦点をしぼりたい。もっとも，帖簿の性格からいって，われわれが知り得るのは，何がどれくらい販売されたか，あるいは購入されたかであり，売却・購入という観点から見た生産・消費の記録という方が正確であろう。ただし，例えば小麦や大麦については，脱穀量と販売量の両者が解るので，自家消費分に

注（1）岡田泰男「西漸運動と東部農村」(『三田学会雑誌』73巻3号，1980年）を参照されたい。

（2）Philip Slout Lott Papers. (Day Book, 1830–1888, Ledger, 5 vols.), Dept. of Manuscripts and University Archives, Cornell Univ. 本稿は，もっぱらこの史料によって書かれているので，本史料への注記は，特に必要でない限りおこなわない。

ついても，ある程度の見当はつくし，10年おきではあるがセンサスも一応の参考になる。

ロットの勘定帖（Day Book）には，日付，取引相手名，貸方借方の別，品目，単価および総額が記入されており，それが取引相手別に元帳（Ledger）に転記されている。大半の取引は掛であって，適当な時期に清算されているが，年度が下るにしたがって現金取引が増加している。1830年1月（ロットは21歳）から記入が始まり，1880年代の半ばまで続いているが，1880年以降の記入はまばらである。記入を開始した当時は，父の農場で働いている独身の青年であったから，勘定帖といっても小遣帖のようなものであるが，1836年に結婚し，1841年に自分の農場を取得する頃になると，記入内容も豊富になってくる。ここで具体例として1843年をとり上げ，どんな事柄を知り得るのかを示そう。農場取得は41年10月のことであったから，実質的には農場経営を始めて2年目，一応軌道に乗り始めた時期といえよう。同年ロット家の家族構成は，フィリップ34歳，妻エリザベス28歳，長男エライア5歳，次男スカイラーが生まれたばかりである。なお，農民の生活パターンからいって，1年を暦の上の1月1日から12月31日までとすることは，必ずしも適当ではない。例えば秋に収穫された作物は，しばしば翌年に入ってから売却されたからである。それ故，ここでは，ほぼその年の生産活動が開始される4月1日から，翌年3月31日までを1年とすることとした。以下，1843年とは，同年4月から翌年3月末までを意味するものとし，他の年度についても同様とする。

第1表は，1843年におけるロット農場の収支を示している。収入に関しては，一応大きく農作物

第1表　ロット農場の収支記録　(1843年)

〈収入〉	売却量	平均単価	合計金額	〈支出〉	金額
小麦	315.5(bu.)	$ 0.79	$ 249.33	食品	$ 17.38
とうもろこし	38.0(〃)	0.37	14.14	衣料品	40.31
クローバー種子	3.5(〃)	3.28	11.49	家具什器	13.19
じゃがいも	42.0(〃)	0.27	11.25	諸費用	3.85
乾草	12.0(cwt.)	0.38	4.50	小計	(74.43)
オート麦	10.0(bu.)	0.25	2.50		
プラム	0.5(〃)	2.50	1.25	農業労働	28.20
そば	2.0(〃)	0.50	1.00	非農業労働	6.61
小計			(295.46)	農機具	7.64
羊毛	42.5(lb.)	0.38	15.94	租税	5.98
バタ	159.25(〃)	0.10	15.84	小計	(48.43)
仔豚	16 頭	0.57	9.13		
豚	136.0(lb.)	0.035	4.76	土地	150.00
ハム	25.0(〃)	0.06	1.50		
仔牛皮革	15.0(〃)	0.08	1.20	合計	273.16
仔牛肉	24.0(〃)	0.02	0.48		
塩づけ豚肉	5.0(〃)	0.07	0.35		
小計			(49.25)		
合計			344.71		

（小麦，とうもろこし等）と畜産物（羊毛，バタ等）に分け，品目，売却量，平均単価，合計金額を示した。これによって，同年のロット農場が穀作農家であり，主要作物が小麦であることは一目瞭然であろう。収入のうち，畜産物は15％にも達せず，小麦のみで72％をしめているからである。なお，315 ブッシェルの小麦は，もちろん一度に売却されたわけではなく，ブッシェルあたりの単価は合計金額を売却量で割ったものになっている。次に支出に関しては，家計と経営とを分け，さらに土地に関する出費を独立させて示した。家計支出は，食品，衣服，家財道具，その他の出費に分けられる。同年，食品に含まれているのは，砂糖，糖蜜，塩，紅茶，コーヒー，タバコ，香辛料などである。衣服の中には靴も含めたが，この年度にあっては，まだ既製服や工場製の靴は購入されていない。モスリン，キャラコ，フランネル，カシミヤ，交織サテン等の生地，糸，リボン，ボタン，子供用の帽子，手袋，そして仕立代が含まれ，靴革，作り賃および修理代が含まれている。なお，生地の中には，ベッド用のシーツが入っているかもしれない。家具什器としては，テーブル，台所用品，食器，ナイフとフォーク等が含まれているが，ウィリアム・ハリスン大統領の肖像画，紙，マッチ，灯油等もこの中に入れてある。その他の出費には，雑誌購読料，教会での寄付，農業共進会入場料等が含まれる。次に農場経営に関わる出費で大きいのは農業労働者に支払われた賃金である。同年，ロット農場には常雇いの労働者はおらず，主に収穫期に日雇いの形で利用している。通常，日給は1ドルであった。非農業労働というのは，鍛冶屋，おけ屋に対する支払いである。鍛冶屋は，馬蹄をつくり，蹄鉄を打つのみでなく，農具の製造，修理をおこなった。農機具の中には，すき，くわ，熊手等の他，石灰等の肥料も含ませておいた。租税というのは，郡がかける地税である。最後の土地という項目は，41年に農場を購入した際の借金の同年支払い分である。後に示すように，必ずしも毎年同額を返却するわけではなく，かなりの変動がある。

上記の如き収支記録を，1842年から1880年までの約40年分，すべての年度について作製し，それを通じてロット農場における生産と消費の変遷をたどろうというのが本稿の趣旨である。（付表参照。なお，付表は農場取得の少し以前から作製してある。）

I　ロット農場の収入の変化

最初に，ロットが農場を取得して独立するに至るまでの過程を考察しよう。東部農村の若者が自分の農場を取得する方法として，相続もしくは父親の農場の分割という可能性も考えられる。しかし実際には，ダンホフも指摘するように，自らの蓄積と借金とで農場を取得するのが通常であった。当時は子供の数が多かったし，一方，東部の農場はそう大きくはなかったからである。ロットの場合を考えてみても，彼は長男ではあったが，彼の下に男子4名，女子2名の子供がいたし，父親の農場は120エーカーにすぎなかった。父親は1873年まで健在であり，その農場は1876年（ロット67歳）

になって分割売却されたのである。農村の青年の多くは，農業労働者又は一般労働者（運送，伐木，開墾等）として働き，やはりダンホフによれば，5年から10年かけて500ドル程度を貯蓄し，それを頭金として農場を取得したといわれる。(3)

ロットは勘定帖を付け始めた当初は，父親の農場を手伝っていたので，収入といっても年に30ドル足らず，支出も20ドル程度であった。1833年からは，近隣の農場で働く機会が増え，年収も 100ドル近くなり，貯蓄が可能になる。翌34年以降になると，農繁期に農業労働者として働くと同時に，湖上水運の水夫として働いたり，大工仕事を身につけたりして，年収も150ドル～200ドルと増え，1836年までには360ドルほどの貯金ができた。これは結婚資金ともみることができるのであり，彼は同年暮れに結婚する。新世帯のための家具，食器等をととのえ，生活費もかかるために，1837年の収支は130ドルの赤字となった。なお，この際，父親の援助もかなりあって，現金約30ドル，牝牛1頭，家財道具約50ドル分を受取っている。翌38年には，多分父の農場の一部を借りて150ブッシェル程の小麦を作っているが，やはり大工仕事にも身を入れ，年間50～130日は大工として働いた。1841 年に農場を購入するまでの11年間の総収支を計算してみると，結局450ドル程の蓄積ができた勘定となり，前記ダンホフの数字とそう離れてはいない。

さて，西部へ移住して未墾の公有地を取得する積りであれば，土地代金はエーカー当り1ドル25セントで良い。しかし，東部ですでに生産がおこなわれている農場を取得するとなれば，エーカー当り50ドル位は必要であった。ロットが父親の農場近くに購入した農場は59エーカーと半端が少々，価格はエーカー50ドルで，総額2,958ドル43セントであった。支払方法は下記の通りである。

現金支払い分	$ 407.15
G・ハルシイへの抵当借金	1,160.74
J・デモットへの抵当借金	1,209.41
州金融公庫への抵当借金	181.13
計	2,958.43

このうち，G・ハルシイは農場売主，J・デモットは村の商人であり，州金融公庫（State Loan Commissioner）とは，植民地時代以来の州の金融機関である。抵当借金期間は，ハルシイとデモットの両者を合わせて5年間，すなわち1842年4月1日より，まずデモットへの返済が始まり，それを3年間で皆済した後，2年間でハルシイへの返済を終了する予定であった。この予定通りであれば，年々の返済額は500ドル近くになるが，実際にはデモットへの返済が1849年迄，ハルシイへのそれが1851年までかかり，州への返済が終ったのは1854年であった。(4) ともあれ，農場取得にあたっ

注（3）Clarence H. Danhof, *Change in Agriculture: The Northern United States, 1820-1870* (Cambridge, 1969), pp. 101-129.

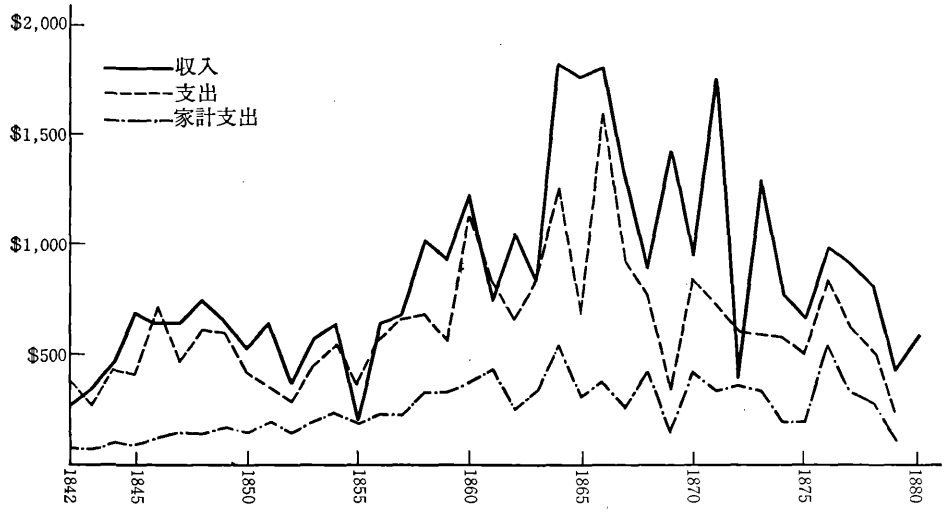
（4）Deed and Mortgage Records, Seneca County, N. Y.

て，かなりの借金が必要であり，その後は年々返済してゆかねばならないのであるから，農業経営の重点は最初から現金収入の確保におかれざるを得ない。以下に見るロット農場の経営は，単に一家の生活の必要を満たすのではなく，現金収入をもたらすような作物・畜産物の生産を中心に展開してゆくのである。なお，農業生産開始にあたっては役畜や農機具も必要であるが，ロットは1841年に馬（$ 67.50），馬具（$ 10.50），すき（$ 4.75）を購入し，翌年に入って種子や肥料を入手した。

第1図は，1842年から1880年までのロット農場の収支の変化を示している。この時代の農場経営が必ずしも平穏無事なものではなく，かなり波乱に富んでいたことが見てとれるであろう。最初の10年間，とくに1840年代は，収入は500～700ドル前後ではあったが，あまり大きな変化はない。しかし，1850年代に入ると変動が大きく，1852年や55年のように収入が200～300ドル位の年もあり，58年のように1,000ドルを越える年もあった。50年代後半から収入は上昇し始め，60年代中葉には著しい上昇を示す。60年代の収入は平均して1,000ドルを越え，高い年は1,800ドルに達した。もっとも，激しい上昇と下降が年々繰り返す傾向が60年代後半から見られ70年代に入っても続く。そして，70年代後半には，全体として収入は下降線をたどるといってよい。

ここで注目に価する点は，40年にわたる農場経営の歴史を通じて，収支が赤字になった年はわずかで，全体としては黒字が続いたことである。収入の変化は激しかったが，長い目でみれば，ロット農場の経営は有利であり，1855年のように極端な年を除き，経営が困難になったことはなかったといえる。支出には，家計，経営に加え，土地代金の返済分が入っているわけであり，収入の上下につれて支出もかなり変動している。しかし，第1図を見れば明らかなように，収入減のために家計費まで大幅に削らねばならぬということは，一二度しかなかった。もちろん，土地代金の返済は，

第1図　収入と支出の変化（1842年～1880年）



当初かなりの重圧で，予定通りにゆかなかったことはすでに述べた。とはいえ，生活苦のための借金というような状況に落ち入らなかったことは確かであり，その点では東部へ留ったことを後悔する必要はなかった。ロットの農場は50年代までは59エーカー，60年代以降は借地も含めて100～120エーカーという規模であり，その地域では中，もしくは中の下の規模であった。(5) しかも，その経営は，以下に述べるように基本的には穀作中心であり，決して果樹栽培の如き集約農業ではなかった。東部においてかかる経営をおこなう中小農民が，一応の利益を上げ続けることができた事実を，まず記憶にとどめておきたい。

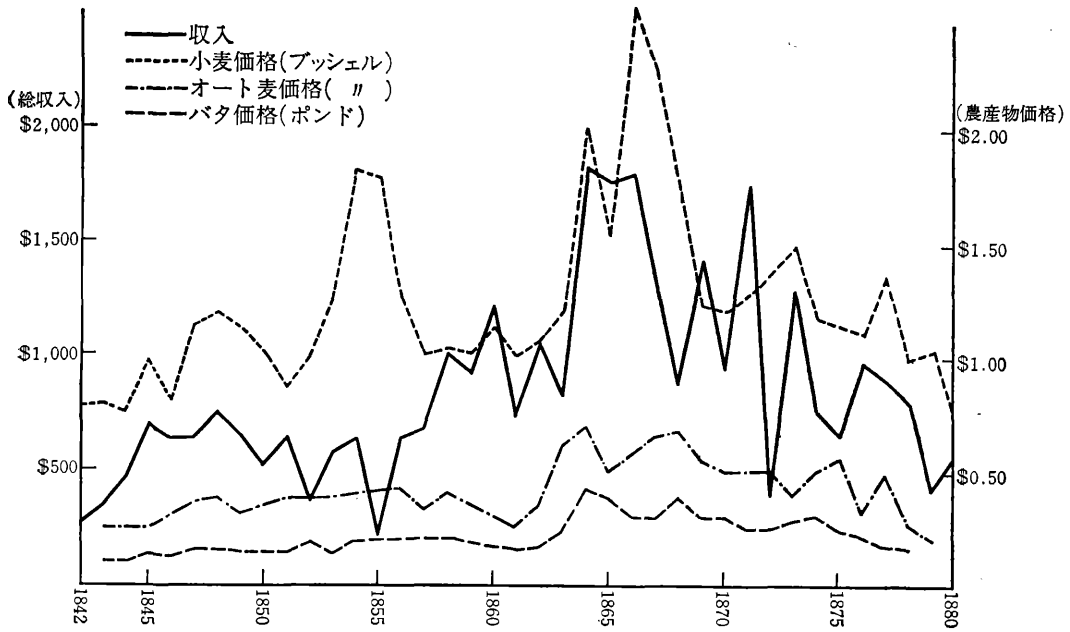
収入の変化は何によってもたらされたか。長期的に見て，60年代以降収入が増加しているのは，前記の経営規模拡大の結果である。しかし，年々の動きは農産物価格および作柄の変化によるものといってよい。ロット農場では，常に同じ作物が作られていたわけではないが，小麦，オート麦，畜産物としてはバタについて，ほぼ40年間の販売価格の変化を追うことができる。第2図は，これら三種類の農産物のブッシェル又はポンドあたりの価格変化を示し，収入の変化に重ねてみたものである。とりあえず，小麦価格の変化が，オート麦やバタに比して大きいことに気付くが，これは小麦が国際的商品であることによる。オート麦は，自家消費される部分が多いし，バタにしても市場の範囲はそう広くなかった。ロット農場の収入の変化と小麦価格の変動は，1850年代初頭までは平行して動いている。これは，当時における小麦の比重の大きさによる。60年代中葉には，オート麦やバタも含め，農産物価格は上昇しており，それが高収入をもたらしていた。一方，70年代における価格低落傾向は，農場収入を減少させたといえる。なお，われわれの史料からは作柄の変化は知り得ないが，上記の如き価格変化と作柄の良否が，ロット農場の生産パターンに影響を及ぼしたと考えられる。

ロット農場では何が作られていたか。1843年の例を先にあげたが，このパターンがずっと続くわけではない。第2表は，その変化の動向を示している。まず生産物を，小麦，とうもろこしの如き農作物と，羊毛やバタの如き畜産物に大きく二分する。第2表の最初の欄は，総収入の中で，農作物販売による収入が何パーセントをしめているかを示す。1840年代には，農作物の比重が80%以下

注（5）U. S. Censuses (MSS), Agriculture, 1850–1880, Lodi, Seneca County, N. Y. ここで，彼の住んでいたロダイの農場規模の分布を示せば，次の通りである。

規模（エーカー）	農場数	
	1850年	1860年
49以下	39	32
50～ 99	73	86
100～149	49	40
150～199	18	19
200以上	22	21
計	201	198

第2図　農産物価格の変化（1842年～1880年）



第2表　主要作物とその比重（1842年～1880年）

年度	農作物による収入の割合	首位作物	首位作物による収入の割合	年度	農作物による収入の割合	首位作物	首位作物による収入の割合
1842年	99.3%	小　麦	90.7%	1862年	65.2%	小　麦	26.7%
3	85.7	〃	72.3	3	71.0	オート麦	23.2
4	84.9	〃	48.2	4	65.2	そ　ば	16.8
5	85.9	〃	40.0	5	74.3	小　麦	18.7
6	80.0	〃	43.4	6	74.3	〃	44.1
7	89.3	〃	36.9	7	72.8	〃	42.0
8	87.6	〃	64.7	8	61.6	大　麦	45.4
9	83.4	〃	66.9	9	70.1	小　麦	30.3
1850	82.0	〃	57.3	1870	74.6	〃	21.9
1	83.6	〃	34.0	1	80.1	〃	37.8
2	57.7	〃	35.8	2	35.7	バ　タ	32.5
3	72.2	〃	30.2	3	72.7	大　麦	27.8
4	72.9	〃	30.0	4	71.7	とうもろこし	20.7
5	61.3	クローバー種子	35.2	5	46.7	大　麦	18.8
6	89.4	大　麦	27.7	6	76.7	〃	26.3
7	88.5	〃	34.4	7	60.9	〃	24.0
8	89.6	オート麦	23.1	8	73.4	小　麦	45.3
9	60.0	とうもろこし	19.5	9	63.3	とうもろこし	31.6
1860	77.9	小　麦	38.0	1880	70.2	小　麦	46.8
1	53.2	ライ麦	12.2				

になることはなかったが，50年代に入ると，70%以下になる年度が3回，60年代には4回，70年代にも4回を数えている。したがって，年代を下るにつれ，畜産物の比重が増すことは明らかで，とくに70年代には，農作物の比重が50%を割る年度が2回存在する。しかし，穀作農家から畜産もしくは酪農農場へ，というような大きな転回がなしとげられたわけではない。

第2表の中央の欄は，販売収入額が首位をしめた農産物を示し，右の欄は，首位の産物による収入が，総収入の何パーセントをしめたかを示している。これによって，1850年代中葉まで小麦農家であったロット農場が，その後は一般穀作農家へ移っていった経過がよく解ると思う。40年代における小麦の比重は圧倒的であり，単に首位をしめるのみならず，小麦による収入が全体の60%以上をしめる年度が4回もある。50年代に入ると，相変らず小麦が首位をしめてはいるものの，小麦収入の比重は30%代に減少し，1855年に至ってクローバー種子に首位を奪われる。小麦の凋落は収入額のみではなく，生産量からも示される。1849年，小麦生産量（販売量ではなく脱穀量）は，492ブッシェルであったが，1851年には319ブッシェル，53年には156ブッシェル，55年には84ブッシェルと減少しており，病虫害や天候による小麦不作の深刻化を物語っている。肥料（plaster や lime）を用い，新種の種小麦を入手し，1850年からは春小麦を増やしているが，その甲斐がなかったというべきであろうか。(6)

1855年以降の記録は，試行錯誤の記録ともいえるし，51年以降開始されていた多角化の方向が，一層進んだ結果と見ることもできる。注目すべきことは，(1)1872年を除き畜産物が首位をしめたことがない点，(2)単一の首位作物が50%以上の収入をもたらしたことがない点，(3)60年代以降に小麦が何回も首位作物になっている点，以上3点であろう。ロット農場が，単一の作物に大きく依存することのない一般農業（general farming）をおこなっていたこと，しかし中心は穀作におかれ，小麦生産も放棄されてしまったのではないことが明らかである。ロットは帖簿を付けていた事実からも解るように，全くの無教養な農民ではなく，*American Agriculturists* や *Genesee Farmer* のような農業雑誌も早くからとっていた。金肥のみならず厩肥（manure, dung）を利用していることや，排水溝などによる土地改良に熱心であったことは，彼が雑誌編集者のすすめる改良農法に従った結果であるかもしれない。したがって彼が穀作を続け，小麦を捨てなかった事実をもって，慣習に縛られた保守的農民の経営と判断してしまうことは正しくない。ロット農場が黒字を続け得たのは，単なる幸運のお蔭ではなく，苦心の経営の賜物であった。この点を，結局は主たる位置をしめ得なかった畜産部門で，いかなる試みがおこなわれたかを追うことにより証明したい。

19世紀ニュー・ヨーク州農業の変化は，まず東部で始まり，それがいく分形を変えながら州の中央部，西部へ及んでゆくという歴史をたどった。州の東部において，最初は小麦生産が盛んであっ

注（6）ロットの勘定帖には，種小麦を入手した際には，Mediteranean wheat, 4 Bu. $ 4.25 (1853) の如く，種名が記入してある。

たが，地力の疲弊，病虫害，西部の競争により，1840年代までには小麦は不利となっていた。そうした状況の中で畜産への関心が高まったが，最初から酪農業がとり入れられたわけではなく，先ず導入されたのは牧羊業であった。これは羊毛工業の成立とも関連があるが，一時期は羊毛価格も高く非常に盛んであった。しかし，じきにオハイオなど西部諸州に牧羊業が広まると，ここにも西部の競争が生じ，結局，酪農業に活路を見出してゆくことになる。しかし，牧羊業は穀作一辺倒から，畜産をもとり入れた混合農業への道を開いたのであった。(7)

ロットの農場のあったニュー・ヨーク州中部では，1850年においても，いまだ小麦が最も重要な作物であった。(8) しかし，東部で生じたような事態はすでに起り始めていたわけであるから，ロットは最初から畜産にも目を向けていた。1843年すでに羊毛生産がおこなわれていたことは，見た通りであり，当初，年間40～50ポンドの販売量が，47，8年には100ポンドを越えている。もっとも，羊毛価格は1844年にポンドあたり40セントであったものが，48年には25セントへ下落している。ロットは羊毛生産を減少させてゆき，1852年には羊32頭，仔羊14頭を売りはらってしまった。やがて南北戦争期に，羊毛への需要が増加し，価格高騰からブームが訪れる。ロットもヴァモントのメリノ羊を購入し，ポンドあたり価格が73セントに上昇した1864年には，330ポンドを販売している。その後も数年間は200ポンド前後を生産していたが，結局1870年を最後に羊毛生産は放棄され，その年のセンサスでは，ロットは1頭の羊も飼っていない。(9)

一方，バタの生産は，やはり最初からおこなわれ，ずっと継続した。もっとも販売量は1840，50年代を通じて，年間150ポンド程度であり，1850年のセンサスでは乳牛は3頭しか飼育していない。しかし，60年代以降，バタ生産量は増加する。バタ価格も南北戦争期に上昇し，その後は下落するが，牧羊の場合と異なり，酪農は放棄されない。60年代に200～300ポンドであった販売量は，70年代に入ると300～400ポンドに増加する。特に注目さるべきは，1875年以降，チーズの共同製造にも参加するようになったことである。これは州東部では50年代以来おこなわれている方法であるが，いわゆるチーズ工場を設立し，個々の農民は単に牛乳を提供するのみで，製造は工場にまかされるものである。1875年の場合，製造期間は7月～10月であり，ロットは6頭の乳牛から約12,000ポンドの牛乳を供給した。同年，バタ311ポンドからの収入は75ドル，チーズ工場からの収入は113ドルであった。バタ製造に比べれば，週1回牛乳を運ぶだけの手間ですむことが有利であった。1879年以降はバタ販売の記録はなく，チーズ工場からの収入のみが記されているので，バタは自家消費分以外製造されなくなったものと思われる。

さらに，金額的には少ないが，養鶏などにおいても，さまざまな試みがなされている。鶏と七面

注（7）David Ellis, *Landlords and Farmers in the Hudson-Mohawk Region* (Ithaca, 1946), pp. 184-224.
（8）Report of the Commissioner of Patents, Agriculture, 1851, p. 210 などを見よ。
（9）U. S. Census (MSS) Agriculture, 1870, Lodi, Seneca County, N. Y.

鳥は，すでに40年代半ばから販売されており，年間5～10ドルの収入をもたらしていた。50年代半ばになると，前述の如く牧羊からは手を引くが，養鶏の規模は増し，1856年には鶏100羽，七面鳥24羽，計36ドル分を出荷した。しかも，これらは近隣での売却であったのが，1863年になると「ニュー・ヨーク市で売却」という記入が現われる。これはクリスマスの時期などに，特別の急行料金（Express Charge）と，手数料を支払って，ニュー・ヨーク市に出荷するもので，近くではポンドあたり10セント程度の鶏が，20セントで売れた。1865年の鶏，七面鳥からの収入は96ドルに達し，1867年には鶏300羽，七面鳥282羽を出荷している。かかる事実は，ロットが販売面にまで十分目をくばる積極的農場経営をしていた証拠といえよう。

かかる経営上の努力が，中心となる穀作でなされていたことはいうまでもない。たとえば，1850年代中葉以降，小麦が首位を失った後，大麦などが重要性を持ってくることは第2表で見た通りである。大麦は，ロット農場においては，1850年代に入ってから生産・販売されるようになった作物であるが，これは，ほとんど自家消費されることのない，まさに販売用作物であった。このことは，毎年の脱穀量と販売量とを比較してみると明らかである。小麦の場合，40年代には収穫の90％以上が常に売却されていたが，50年代半ばから60年代に入ると，60～70％くらいしか売却されぬ年が多くなり，70年代には30％前後の年すらある。これに比較すると，大麦は，ほとんど常に90％以上が売却されており，80％以下になった年は，30年間を通じて1回しかない。大麦は，主にビールの原料として利用されたので，「その使用法，というより悪用法（the use or rather abuse）は，良心的かつ思慮ある人々にとって，とうてい好ましいといえない」作物でもあった。[(10)] ロットが，その生産に熱心であったことは，彼が非良心的なしるしではなく，思慮ある農場経営者であった証拠と見るべきであろう。なお，販売面においても苦心をしていた事実は，彼が単一の穀物商人ではなく，何人かの商人と取引をし，小麦はAに，大麦はBに，オート麦はCに，という具合に売却していたことからもわかる。

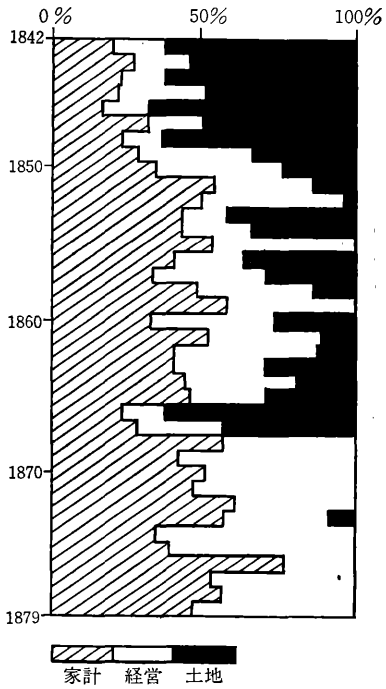
以上，収入もしくは生産の面からロットの記録を眺めた。彼が当初借金して農場を購入し，小麦の病虫害や西部の競争にもかかわらず，40年間にわたって黒字経営を維持しえたのは，生産・販売面での工夫の結果であったことが明らかであろう。しかし，そのような努力にもかかわらず，ロットは中小農民にとどまり，それほどの経営拡大はなし得なかった。それが何故であったかを，支出の面から探ってみよう。

注 (10) Solon Robinson, ed., *Facts for Farmers* (N. Y., 1873), p. 706.

Ⅱ　ロット農場の支出の変化

ロット農場の支出の変化は，第1図に示した通りであるが，その中で，家計，農場経営，土地のしめる割合の変化を第3図で示す。この図によって明らかな如く，ロットが農場経営に乗り出した1840年代には，土地代金支払の重圧が大きく，その後も1860年代後半に至るまで，土地代金が家計と経営を圧迫した年がしばしばあった。家計は，子供達の成長に伴って，60年代中葉まで増加傾向を示し，その後も平均して経営より，いくぶん比重が重い。もっとも，これは家族労働を無償として計算しているためで，食料や衣服への支出の一部を家族労賃と考えれば，経営の部分が当然大きくなろう。ただし，成人した子供に対しては賃金支払いが記録されており，長男エライアは1861年から64年までの期間，年間100ドルを与えられている。

第3図　支出の内訳の変化
（1842年～1879年）



すでに記した如く，ロットは1841年に59エーカーの農場を購入した。その後1851年に4エーカー半の林地も取得し，1866年に32エーカーを購入した。但し，この32エーカー分は，すでに1856年より使用もしていたらしく，地代もしくは利子という形式で部分的には56年以降，支払いがおこなわれている。なお，60年代前半には，さらに20～30エーカーの借地をしている。[(11)] 土地に関連する支出は，1840年代に年間平均280ドル，50年代に107ドル，60年代に260ドルとなっており，40年代には家計と経営を合わせた額（年平均215ドル）を上廻っている。地価の高い東部で農業をおこなうことの困難さを物語っているといえよう。

もっとも，土地代金の圧迫が経営を萎縮させてしまっていたと考えてはならない。前節で明らかにした如く，ロットは積極的な農場経営をおこない，土地改良や肥料使用にも熱心であった。このことは経営に関する支出の内容を見ればよくわかる。経営上の支出は，労賃，非農業労働に対する支払い，農機具等購入，租税に分けられるが，その割合は長期的に見るとほぼ安定している。労賃が30～40%，非農業労働が10～15%，農機具等購入が30～40%，租税が10～15%といったところである。労賃は当然，収穫や脱穀に関するものが多いが，Draw Dung, Draw Maunre, Dig Ditch, Clean Ditch という類の記入が1840年代から毎年見られる。とくに排水溝に関しては，

注 (11) Deed Records, Seneca County, N. Y.

Dig Open Ditch, Blind Ditch, Stone Ditch というように，暗渠や石を敷いたものがあったことを示す記入がある。また，Horse Service, Bull Service という馬や牛の種つけは，品種改良への意欲を示している。農機具その他の購入では，収穫機の購入（1861 年，1870 年）や種まき機（1875年）が金額としては目立つが，毎年 Plaster を購入し，あるいは種子を他から入手している点が注目さるべきであろう。こうした支出内容は，彼の改良農法への熱意を示すものであり，おざなりな農耕によって地力を疲弊させてしまうようなタイプの農民でなかったことがわかる。見方を変えるならば，彼は経営規模の拡大（農場面積の拡大）よりは，農業の質的充実をはかったともいえる。実際問題として，地価の高い東部においては，これ以上の土地購入は困難であったし，もしもっと土地を取得していたならば，経営や家計はその重圧に耐えられなかったかもしれない。

次に，家計支出は食品，衣服，家財道具，その他に四分される。それぞれのしめる割合は，食品が15～20%，衣服が15～30%，家財道具が25～35%，その他の費用が15～40%となっている。その割合は，家族構成あるいは家族の年齢によって変化するので，年代によって異なる。(12) 1840年代，ロットはまだ30歳代であり，子供も10歳以下で幼い。この時期には家計支出の総額も年間100～150ドル程度で，あまり家財道具もそろっていないが，とりあえず着ることと食べることが中心になる。ただ後半になってから，居間用のストーヴや，料理用ストーヴを購入する余裕が生じた。1850年代に入ると，子供達の成長につれて，衣服の出費が多くなり，教育費（その他の費用に含む）もかかるようになる。そして支出総額も150～300ドルと増大してくる。衣服の項目を見ると，例えば父親のロットは 8 ドルのオーバーを買っているのに，長男には 9 ドル50セントの上等のコートを買ってやっているし，家族一同の靴代も毎年一足は新調するので馬鹿にならない。食品への支出はコーヒー，紅茶，砂糖，調味料等とあまり変らないので，この時期には比重は少なくなる。

1860 年に，長男は 21歳，次男18歳，長女14歳となり，子供達も大人になってくる。この 1860 年代は収入も増えた時期であるので，家計支出も250～500ドルと多くなり，生活もゆとりを持ってくる。家計の中で，家財道具と，その他の出費のしめる割合が増えてくるのが特徴的である。家財道具として，30ヤード分のカーペットを60ドル近く出して買ったり，1 脚35ドルもするソファーを購入したりしているし，妻にはミシン，娘にはメロディオン（オルガン）を，各 15 ドル，68ドルで買い与えている。その他の費用の中で，先ず出てくるのは，長男と次男が南北戦争に徴兵されぬための代替支払いで，1 人分70ドルである。次に教育費がある。長男は農業を継いだが，次男は医者になることを志したので，オルバニーの医学校へ入る必要があった。最初の年に，とりあえず95ドルを渡している。娘も女学校に入り，寄宿舎に住んだので，やはり年90ドルほど渡している。これら

注 (12) こうした問題について，家族史，社会史の研究に参考とすべきものが多い。例えば次を見よ。Tamara K. Hareven and Maris A. Vinovskis, eds. *Family and Population in Nineteenth-Century America* (Princeton, 1978).

に比して衣服代はそれほど多くならない。もちろん，20ドル以上出して，フランス生地6ヤードを買ったり，13ドルもする毛皮のケープを購入したりしているので，かなり出費のかさむ年もあるが，60年代を平均してみると年64ドル（全体の18.5%）の出費で，家財道具の99ドル（28.8%），他の費用の130ドル（37.9%）より低い。なお食品は51ドル（14.8%）である。食品の内容は，コーヒー，紅茶，砂糖，タバコなど，あまり変化はないが，果物のかん詰や，干しぶどうが目新しいところといえる。衣服費がそれほど大きくない一因は，子供達への小遣（他の出費に含む）の中から，息子や娘が，自分の好みの服を買ったということであるかもしれない。

1870年代に入ると，ロットはすでに60歳代である。長男と娘は家にいるが，次男は結婚し，隣りの郡で開業している。この時期も食品と衣服のしめる割合は少さく，家財道具とその他の出費が大きい。1871～74年にかけて家屋を増改築し，72年にベッド，テーブル，椅子などを購入した。大理石の上面のテーブル（14ドル）なども含まれている。石炭ストーヴを買い，煙突をつけ，1873年には家屋に火災保険（3か年分，19ドル50セント）を掛けている。1871年に，シカゴ大火への救援費を寄付（50セント）しているので，火事の心配をしたのかもしれない。1876年5月に永年つれそった妻エリザベスが病死した。4月から5月にかけて，医者が47回往診し，1回1ドル，計47ドル支払っている。次男にも電報（25セント）して呼び寄せたが空しかった。お棺に45ドル，墓石に105ドル出費した。なお，この年は，独立百年記念の博覧会がフィラデルフィアで開催されたので，気分を変えるため，10月に見物旅行をした。往復旅費35ドル，宿賃12ドルなど，計60ドルほどかかっている。ロットは教会の有力メンバーであったらしく，教会の負債返却に65ドル寄付もしており，これらが重なって，他の出費の割合が増えている。長男は1878年に結婚したが，娘は独身であり，その年にロットは金時計（48ドル）を買い与えた。1870年代の年間家計支出は，平均すると320ドルであった。

消費の変化は，一面では上記の如き年齢や家族構成の変化に対応するものであるが，同時に時代の変化をも示すものである。この点を支出の内容および方法によって考察しよう。先ず支払方法であるが，一口にいって早い時期ほど掛勘定が多く，後には現金支払いが一般的になる。1840年代，ロットは主にデモット，ウドワース，あるいはメイプスなどという商人の店で買物をしているが，それらはすべて掛買いである。そして農産物収穫期になると小麦なり，クローバー種子なりを，それら商人のところへ持ってゆき，年に一度くらい清算をして，差額を現金もしくは手形で支払い，あるいは受取ることになる。日常の現金の支出は，行商人からの買物（年に一，二回）や船賃，雑誌代金，教会での寄付などに限られている。労働者の賃金なども，現金とは限らず，農産物であったり，上記商店でロットの名で掛買いをさせる形で支払われた。

1850年代中葉以降，現金支払いが多くなる。村の商人の店での買物には掛買いもかなりあり，とくに衣料品などはそうであるが，食品や雑貨には現金払いが一般化する。もちろん，そのためには

ロットが現金を持っている必要があるが，これは農産物売却の際，専門の穀物商人に渡して，現金を受取る方法がとられるようになってきたので問題はなかった。そして，一寸離れた町での買物も多くなり，それらはすべて現金払いということになる。1860年代以降は，掛勘定は年々減少し，労賃なども現金で支払われることが多くなる。60年代はすでに記した如く，収入支出共に増大する時期であるので，かなりの額の現金が動くことになる。例えば1866年8月に，ヒムロッドという商人に小麦290ブッシェルを売却した際には722ドルの現金を受取っている。こうした傾向は変化しないが，1870年代に入ると農産物代金を，銀行小切手（Bank Check）で受取ったという記入も出てくる。但し支払いに関しては，現金払いが当然のこととなった。かかる記録から，ロットの住んでいた地域では，ほぼ1850年代が掛勘定から現金使用への境い目の時期といえるように思える。

次に，支出内容の変化は，自家生産から商品購入へ，さらに注文から既製品購入への動きとまとめることができる。この変化を最もよく示すのは，衣服関係の支出である。1840年代には，Carding, Weaving, Fulling 等をしてもらう記入があり，ロットの家で飼育していた羊の毛で，毛織物を作ってもらっていたことがわかる。Colouring and Pressing Flannel に対し，いくら支払ったとか，近くの娘を雇って Spinning をさせたりもしている。綿布はもちろん工場製のもの（Factory と記す）を購入しているが，それを仕立屋に裁断してもらったり，仕立ててもらったりしており，生地や材料の購入が多い。既製服の購入が多くなるのは，1850年代以降であって，上着，ズボン，オーバーなど，いずれも既製のものを購入するようになり，仕立屋への支払い記録は減少する。もっとも夏物は綿布を買って家で縫っていた様子であるし，60年代以降にも，服を仕立ててもらうことはある。しかし，注文から既製へという傾向は，靴に関してもはっきり見てとれる。1840年代には，Making Shoes, Boots に対して靴屋に支払うという記入が一般的であるが，50年代末になると，他所で靴を買ってくることが増え，村の靴屋の仕事は，もっぱら Soling, Mending, Patching と修理専門になる。さらに，家屋の煖房に，60年代まではたきぎを使用していた様子なのが，1870年12月に石炭ストーヴを購入して以来，石炭に頼るようになる。かかる一連の変化は，農村での生活が，ゆるやかにではあるが現金や，都市の工業に依存するに至る過程を示しているものであろう。

フィリップ・ロットにとっては，これらの変化は必ずしも好ましからざるものではない。むしろ，彼の日常生活は，収入の増加ともあわさって，快適さを増していったと考えられる。1870年代は，東部においても農民団体が結成され，鉄道への不満が高まった時代であったが，西部におけるような盛り上りはなかった。ロットの場合にしても，土地代金の支払いをすませ，小麦生産の危機をくぐりぬけた後は，収入の変動がかなり激しかったとはいえ，生活は向上を続けたと考えてよい。たしかに，若い頃に西部へ移住していれば，より大きな規模の農場を経営することも可能であったろう。しかし，生活の場としては，ニュー・ヨーク州中部の農場は，彼に十分な満足を与えてくれた

ものと思われる。

19世紀アメリカ東部の農業は，大都市への近さ，という距離上の利点で西部農業に対抗した。したがって酪農や園芸，果樹栽培などが中心となる。しかし，たとえばニュー・ヨーク州をとっても，ニュー・ヨーク市に近いのは数郡にすぎず，中部，西部には一般農業や穀作を続ける地域もあった。本稿でとり上げたのは，かかる地域であるが，そうした場所でも工夫をこらし，積極的経営をおこない得る事実を，ロット農場の例で示した。そして，生活の場としての農場を考えるならば，東部に留まることが，必ずしも愚かな選択とはいえない点をも示し得たと思う。両親や親類から遠く離れ，芝土小屋に住んで開墾に従事し，ひでりやいなごの害を恐れる西部の農民には，家に火災保険を付けようなどという考えは浮ばなかったに違いない。

（経済学部教授）

付表1　ロット農場の収入

（単位：ドル）

	合　計	農作物	畜産物
1842年	$ 268.77	266.77	2.00
3	344.71	295.46	49.25
4	466.08	395.83	70.25
5	700.80	602.07	98.73
6	641.71	513.15	128.56
7	642.83	574.03	68.80
8	749.74	657.00	92.74
9	654.10	545.33	108.77
1850	527.46	432.38	95.08
1	646.62	540.33	106.29
2	367.89	212.36	155.53
3	574.76	414.69	160.07
4	637.68	464.97	172.71
5	204.49	125.37	79.12
6	641.43	573.59	67.84
7	676.26	598.33	77.93
8	1,016.65	910.44	106.21
9	933.15	560.18	372.97
1860	1,229.99	957.70	272.29
1	741.56	394.33	347.23
2	1,045.31	681.87	363.44
3	831.67	590.82	240.85
4	1,818.35	1,185.06	633.29
5	1,763.08	1,310.05	453.03
6	1,736.69	1,290.04	446.65
7	1,277.26	929.85	347.41
8	885.17	545.53	339.64
9	1,430.93	1,003.05	427.88
1870	934.47	696.86	237.61
1	1,748.57	1,400.52	348.05
2	370.80	132.37	238.43
3	1,234.39	897.04	337.35
4	721.52	517.34	204.18
5	654.07	305.28	348.79
6	920.68	706.13	214.55
7	892.28	543.20	349.08
8	805.31	591.23	214.08
9	415.33	262.96	152.33
1880	569.63	400.10	169.53

付表2　ロット農場の支出

（単位：ドル）

	合　計	家　計	経　営	土　地
1839年	$ 125.57			
1840	99.52			
1	647.67	100.17	120.35	427.15
2	394.40	79.80	65.19	249.41
3	273.16	74.73	48.43	150.00
4	437.70	101.21	62.48	247.01
5	415.62	94.05	114.46	207.11
6	722.39	124.64	103.35	494.40
7	473.59	151.80	82.79	239.00
8	612.00	146.15	74.60	391.25
9	606.62	174.06	223.15	209.41
1850	428.11	147.48	176.93	103.70
1	359.15	193.30	111.95	53.90
2	293.21	145.60	135.36	12.25
3	453.58	194.46	67.51	191.61
4	541.84	232.67	120.17	189.00
5	356.37	189.56	166.81	0
6	575.77	230.36	129.81	215.60
7	665.04	223.94	237.39	203.71
8	683.02	328.73	254.44	99.85
9	565.50	326.44	239.06	0
1860	1,128.15	370.99	453.16	304.00
1	832.80	429.84	302.95	100.00
2	659.11	250.40	308.71	100.00
3	844.26	339.42	250.84	254.00
4	1,258.22	546.95	461.27	250.00
5	681.50	306.40	175.10	200.00
6	1,596.73	375.66	221.07	1,000.00
7	922.57	259.24	254.90	408.43
8	756.44	424.42	332.02	0
9	340.65	141.18	199.47	0
1870	841.15	419.25	421.90	0
1	722.82	334.14	388.68	0
2	602.16	359.24	242.92	0
3	595.40	334.44	203.35	57.60
4	571.25	195.08	376.17	0
5	497.79	189.58	308.21	0
6	839.78	643.26	196.52	0
7	623.87	327.23	296.64	0
8	511.31	281.89	229.42	0
9	236.27	109.21	127.05	0

付表3　ロット農場の家計支出内訳

（単位：ドル）

	食　品	衣　服	家財道具	その他
1839年	$37.80	43.95	18.00	9.53
40	28.80	24.93	24.50	2.63
1	23.59	43.03	17.60	15.95
2	26.05	34.86	13.54	5.35
3	17.38	40.31	13.19	3.85
4	16.50	18.83	25.51	40.37
5	19.66	38.14	20.74	15.51
6	24.08	52.97	29.35	18.24
7	28.98	37.82	58.37	26.63
8	20.49	28.19	80.82	16.65
9	32.32	24.89	85.28	31.57
1850	34.43	40.03	37.44	35.58
1	27.63	46.95	58.87	59.85
2	23.27	49.41	52.74	20.18
3	28.18	63.40	79.12	23.76
4	25.44	68.76	71.64	66.83
5	30.75	86.41	60.61	11.79
6	24.04	61.44	74.29	70.57
7	45.78	64.85	50.22	63.09
8	39.93	92.42	29.77	166.61
9	28.10	123.30	62.23	112.81
1860	47.87	103.60	53.17	166.35
1	33.30	113.24	117.74	165.56
2	37.14	92.12	51.32	69.82
3	33.20	31.83	67.63	206.76
4	59.82	71.69	159.33	256.11
5	50.43	40.39	157.38	58.20
6	57.59	70.20	120.13	127.74
7	58.85	34.19	66.59	99.61
8	77.36	55.90	148.93	142.23
9	52.64	23.71	50.89	13.94
1870	53.95	91.56	177.56	96.18
1	64.61	54.14	130.37	85.02
2	58.13	41.56	188.73	70.62
3	37.59	62.41	92.73	141.71
4	53.80	23.40	75.64	42.24
5	48.38	31.70	67.59	41.91
6	45.37	43.06	122.49	432.34
7	60.90	14.55	108.99	142.79
8	50.19	44.36	113.51	73.83
9	13.50	18.53	24.50	52.68

付表4　ロット農場の経営支出内訳

（単位：ドル）

	農業労働	非農業労働	農機具類	租　税
1839年	0	6.90	9.39	0
40	$1.25	1.70	15.71	0
1	0.31	21.15	98.89	0
2	5.13	15.01	36.98	8.07
3	28.20	6.61	7.64	5.98
4	37.05	11.42	8.03	5.98
5	30.71	14.40	63.73	5.62
6	64.57	22.35	11.01	5.42
7	38.61	11.71	27.63	4.84
8	33.79	14.73	20.54	5.54
9	94.46	32.05	73.23	23.41
1850	62.10	36.73	72.20	5.90
1	87.21	4.72	8.31	11.71
2	50.54	9.55	65.54	9.73
3	21.65	15.33	19.70	10.83
4	34.63	26.92	48.42	10.20
5	26.38	55.50	72.23	12.70
6	37.90	11.43	57.40	23.08
7	148.72	24.31	36.43	27.93
8	99.95	34.94	95.36	24.19
9	82.50	32.93	100.05	23.58
1860	90.78	63.35	273.03	26.00
1	130.29	13.85	130.74	28.08
2	117.97	26.68	129.56	34.50
3	139.05	11.12	54.10	46.57
4	106.05	12.60	64.53	278.09
5	18.78	26.57	49.02	80.73
6	49.01	36.88	66.36	68.82
7	83.97	41.31	67.41	62.21
8	130.24	28.38	119.00	54.40
9	78.92	22.01	51.72	46.82
1870	97.30	38.13	236.00	50.47
1	144.63	52.12	151.87	40.06
2	75.18	46.61	60.97	60.16
3	74.03	42.93	40.30	46.10
4	71.63	33.39	217.06	54.09
5	71.94	7.54	182.01	46.72
6	82.01	18.40	58.96	37.15
7	114.28	56.74	85.35	40.27
8	130.11	23.51	34.73	41.07
9	26.31	5.08	60.83	34.84

付表 1～4 は Lott Papers, Day Book により作製。